

2022年度 羽須美地域の暮らしに関するアンケート 調査結果概要

- 「小さな拠点づくり」という取り組みの認知や興味が広がっていない
 - ・回答者数が2020年度に比べて40%減少
 - ・回答者の88%が60歳以上（特に、若者の興味が広がってない）

- 「地域活動に参加したい（自治会、あすな地区応援隊、口羽をてごおする会）」という意向取り組みへの参加以降は減少したものの100人もおられる

- 「羽須美地域の住環境、暮らしに関する状態評価」の各種項目は、2020年時と比べて上位項目、下位項目は大きな変化はない

- 「困ったときに頼ったり相談できる人や窓口がある」、「気軽に立ち寄れる集いの場」の有無については、「そう思う」という回答が増加傾向にあり。
阿須那地区も口羽地区も、高齢者サロンの場づくりや、生活支援のサービスが少しずつではあるが地域に浸透し始めていると評価することができる

1. 調査の目的

2020年度からスタートしたモデル事業について、1年目は「地域の状態評価」と「取り組みの必要性」についてアンケート調査を行った。この度は、5ヵ年中の中間年にあたるため、初動からの「地域の状態の変化」や「ニーズの変化」を定点観測するため、概ね、2020年度の調査票と同じ項目で調査を実施した。

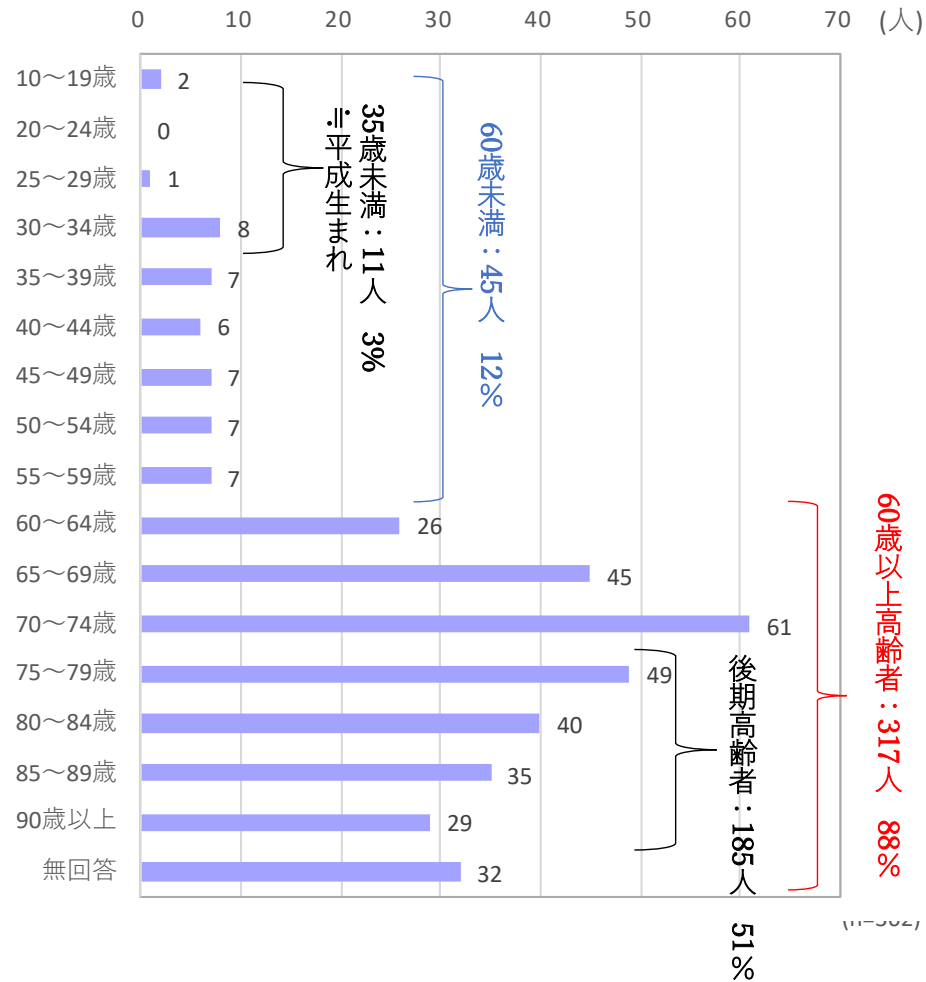
この結果を踏まえて、事業最終年に向けた取り組みの効果や必要性、さらには、事業終了後も持続可能な運営体制を創出するための基礎データとして分析を行う。

2. 調査概要

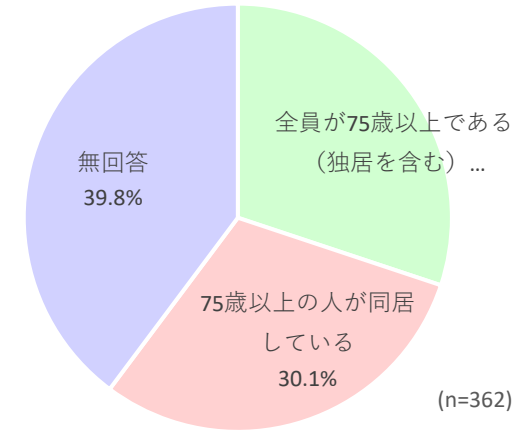
項目	内容
実施期間	2023年3月6日～3月17日（実質、3月31日まで回収）
対象者	羽須美地域在住の高校生以上の住民の皆さま（1,131人）
調査方法	郵送による配布・回収（取り組みの成果状況の報告瓦版と共に送付）一部、窓口回収
有効回答者数	362（回答率：32.0%） > 2020年度調査は558（回答率45.4%） <u>*40%ダウン</u>

3. 調査の回答者属性

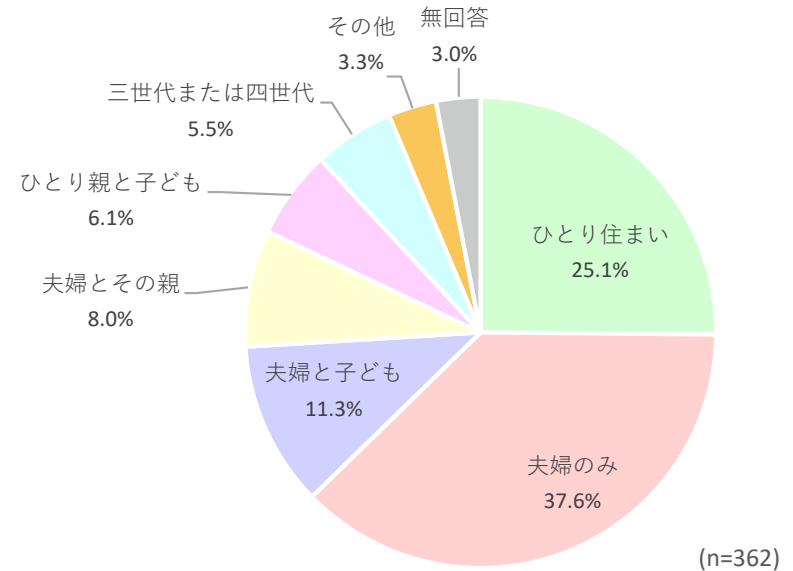
□ 年齢別回答者数



□ 75歳以上世帯の割合



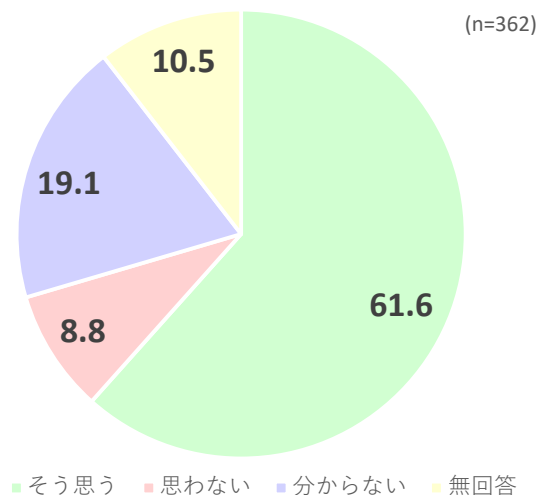
□ 同居家族構成



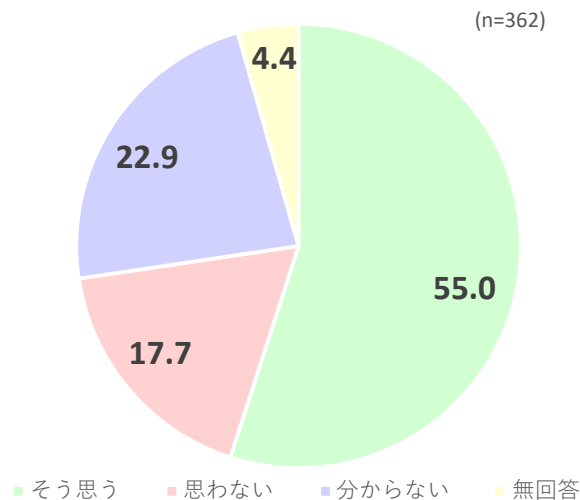
(※2020年度の回答者数は524票
うち、60歳以上79%、60歳以下17%)

4. 暮らしの満足度・地域づくりへの参画意識

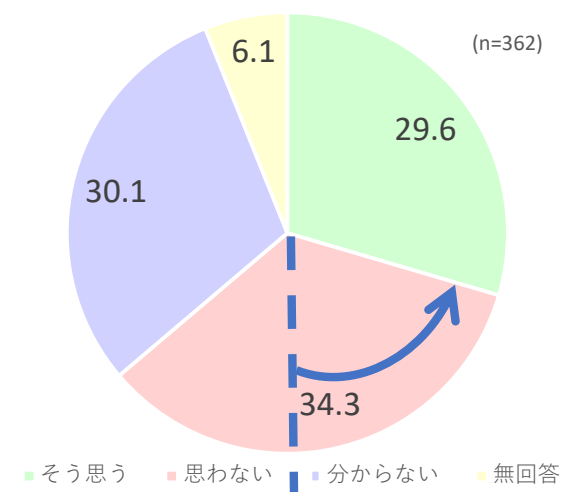
「今後も羽須美地域に住み続けたい」



「今の暮らしは楽しい、幸せだ」



「地域活動に参加したい」



「今後も羽須美地域に住み続けたい」、「今の暮らしは楽しい、幸せだ」という評価は2020年度の結果と大きく変わらないのに対し、

「地域活動に参加したい（自治会、あすな地区応援隊、口羽をてごおする会）」という意向は2020年度：54%から、今回：30%まで大きく下回った。

一方で、75歳以上の後期高齢者の回答が50%を超える中で、羽須美地区内にまだ100人以上の支援者がおられることは、とても心強いと感じています。

5. 羽須美地域の住環境、暮らしに関する状態評価

2020年度の状態評価実感値（そう思う）

